

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年2月28日(2008.2.28)

【公表番号】特表2003-525920(P2003-525920A)

【公表日】平成15年9月2日(2003.9.2)

【出願番号】特願2001-565325(P2001-565325)

【国際特許分類】

C 07 C 51/235 (2006.01)

C 07 C 53/124 (2006.01)

C 07 C 53/126 (2006.01)

C 07 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 07 C 51/235

C 07 C 53/124

C 07 C 53/126

C 07 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成20年1月8日(2008.1.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 8】

以下の例では、特許請求の範囲に記載の方法に従うn-酪酸、2-メチル酪酸、n-ヘプタン酸及びイソノナン酸の製造方法を記載する。アルデヒド原料の反応は、本発明に従い、触媒としての元素周期律表の第5～第11族の金属またはこの金属の化合物の存在下に行われる。これらの例は、アルデヒドを非接触的に酸化した試験（比較例）の結果と比較される。比較例3は例外であり、2-メチルブタナールの酸化を記載する。非接触的酸化反応の際に副反応を高程度に起こす - 分枝アルデヒドの特性を考慮すると、この例においては、当業者が通常選択するアルカリ塩の存在下での酸化反応が比較として引き合いに出される。各々の試験結果は、以下の特性量を記載することによって示される。